

令和元年度 まちづくりトーク 主な意見

開催日:10月23日(水)

会 場:粟屋コミュニティセンター

参加者数:35人

参加者の発言	市の発言	備考
<p>・粟屋地区には、特色ある産業、資源はないが、観光資源はある。しかし、情報発信が不十分の為、周知が出来ていないのが実情である。観光案内の申し出があれば、遠慮なく連絡していただきたい。地域住民の協力のもと、地域資源の開発に努めたい。</p> <p>・日頃、市職員の方々には様々な支援・協力をしていただき、安心安全に生活することができ感謝している。しかし、今後のまちづくりに関して不安を持っている。今後のまちづくりの構想について知りたい。</p>	<p>コンパクトシティにおいて、東日本大震災以降、町を集約化し、各地域住民の命を守る取組をしている自治体もある。コンパクトシティの概念が合っている地域、合わない地域があり、三次市においても各地域において、まちづくりビジョンを策定し、今後のまちづくりの取組を行っている。例としては、最も人口が少なく、高齢社会が進む作木町では、広島県内初の自治連合会を一般社団法人化し、50年後の日本を見越したまちづくりに挑戦する取組を行っている。その背景には、その地域に住む住民は自分の地域が宝であることを大切に、新たなまちづくりに挑戦している。この取組を行政が誘導し、行うことは、三次市のまちづくりビジョンから離れている。粟屋町は市街地のベッドタウンであり、それぞれの地域の特性や個性を生かした地域づくりを進めることが重要である。</p>	
<p>観光資源「霧の海」を、市としては今後どのように生かそうと計画し、地域に何を要求するのか。</p>	<p>・霧の海は市内外から多くの観光客が訪れ、全国ニュースなどにも特集されている状況である。三次市としては大きな観光資源の一つだと考えており、ホームページや観光案内板、パンフレット等を利用し、来訪者には一カ所のみ観光するのではなく、霧の海も合わせて観光していただくようPRしたい。今後も情報発信に力を入れていきたい。</p> <p>・霧の海については、引き続き情報発信を続けていく。観光客に観光資源に触れる機会を増やすこと、さらに三次市にしかない霧の海を外国の方にも見てもらう機会を増やすなど、誘客の方法も今後、注目される場所である。外国人観光客においては、瀬戸内地区周辺に留まっている状況であるため、より多くの方に周知するために、今後も情報発信を工夫していきたい。即効性はないと見込まれる為、地道に情報発信を続けることが重要である。</p>	

令和元年度 まちづくりトーク 主な意見

開催日: 10月23日(水)

会場: 栗屋コミュニティセンター

参加者数: 35人

参加者の発言	市の発言	備考
<p>・旧三江線廃止に伴い、沿線が荒廃してきている。</p> <p>・荒瀬～長谷付近の県道について 線路の為に集落が分かれている件について、市街地から見てどのように感じており、今後の対策が聞きたい。 鉄道用地付近にある集会所のまわりに、昨年JRが測量調査のために用地の杭を打っている。仮に第三者に売却された場合、旧栗屋町集会所及び民家の出入りも制限されてしまう。</p> <p>・旧三江線について国道54号線から三次に入る路線において、十日市の京蘭寺付近が林の整備がなされておらず、栄えていないように感じる。市外の方からしたら、どこが三次の市街地なのか分かりづらいのではないかと。今後の整備計画について詳しく説明してほしい。</p>	<p>・旧三江線廃止に伴い、市の様々な団体に協力を得て、旧三江線鉄道資産の利活用について検討会を設け、議論いただいた。11月にいただいた提言を踏まえ、JRと調整し、旧尾関山駅周辺、作木町門田地区、栗屋町上荒瀬踏切付近の鉄道資産を取得した。検討会の中でも除草を含めた管理についても意見をいただき、市としてもJRに対して所有者としての責任を果たすよう申し入れをしている状況である。</p> <p>・旧栗屋駅前については、JRから登記整理の関係で測量を行ったと聞いており、その作業の杭と思う。JRからの土地の取得は一筆単位となっており、栗屋駅前の土地は、ホームや線路を広く含んでおり、かなり広範囲となる。駅前の集会所や消防の格納庫の使用に支障が生じないように、引き続き、JRの土地を利用できるよう、利用範囲や賃貸が可能かなど、条件面の協議を行うこととしている。</p> <p>・十日市の京蘭寺付近の林について、所有者を承知していないので確認したい。JRの所有の敷地であれば、適切な管理を要望をしていきたい。</p>	
<p>・高谷山関連 除雪がされず、車両の通行が難しい状況である。観光協会に問い合わせると、民家がないため除雪が難しいとの回答を得た。高谷山は三次市の観光資源の一つであるが、今の状況では降雪時、観光することが出来ない状況である。対策として、積極的に除雪をするか、一定の時期は観光不可等であることを情報発信するべきである。 霧の海は日の出のみというイメージがあるが、夜間時にも観光できることを情報発信するべきである。 さらに、キャンプ場としてのアピールもしていただきたい。</p>	<p>・霧の海に関して、地元の人でなければ知らない新たな魅力もあり、地域住民の方からも情報発信をしていただきたい。市としても情報発信を積極的に行いたい。</p> <p>・高谷山の除雪に関して 第一として高谷山の住民が通行が出来るよう除雪を進めている。提案として挙げられた通行不可の表示に関しては非常に親切な表示であり、前向きに取り入れるよう検討していきたい。</p>	
<p>巴橋のライトアップに関して、霧の発生時には、巴橋のライトアップの時間は終了しており、併せて観光することが出来ていない。巴橋のライトアップの時間帯も再考していただきたい。</p>	<p>現在、巴橋のライトアップの正確な時間帯は不明であるが、確認したい。一つの提案としてお受けしたい。</p>	
<p>常清滝を観光した際、道の整備がなされていなかった。水害により倒木が放置されている状況である。</p>	<p>7月豪雨当時は倒木が多くあり、滝にたどり着けないような状況であったが、現在は撤去作業も進み、滝の方は問題なく観光できる状況である。撤去が十分でない箇所は、自治連の力をお借りし、遊歩道の支障木の伐採を依頼している。</p>	

令和元年度 まちづくりトーク 主な意見

開催日:10月23日(水)

会 場:栗屋コミュニティセンター

参加者数:35人

参加者の発言	市の発言	備考
<p>三次本通りについて、もののけミュージアムが出来たが、観光客が本通りへ流れてこない状況である。石畳が整備されたが、空き家も多く、魅力あるまちづくりへ繋がっていない。全体的な町の魅力向上のために有効的な出店の必要があると感じている。</p>	<p>三次本通りの誘客について、市としても問題意識を持っている。もののけミュージアムだけではなく、三次の本通りや他の施設にも周遊客を増やすことが目的である。まだ十分、本通り商店街へ観光客が流れていないのが現実である。本通り商店街や三次観光まちづくり機構(DMO)との連携を図り、夏にはイベントを開催したが、まだまだ十分な成果は見られなかった。市としても、本通り沿線の住宅を改修される際は補助金を支給したり、チャレンジショップを出店される際は支援を行っている。また、今後も集客のための様々なイベントを計画している。地域の方々と共にいろいろな取組を行いたい。</p>	
<p>高谷山に関して、高宮から三次へ抜ける新しい農道について、7月豪雨時にも迂回路になるくらい良い道が完成している。完成時から年月が経っており、草刈りは定期的に行っているが、木に関しては整備がされていないため、大きな木が道にはみ出している状況である。特に7月豪雨時には大型車が迂回路として利用しており、木に接触するのを防ぐためセンターラインを大幅にはみ出して走行している状況であった。道の整備のみではなく、側面の整備にも目を向けていただきたい。木の枝や石などは地域住民により可能な範囲で整備することが出来るが、大きな木などは行政の力が必要となってくる。</p>	<p>通行の支障が出るような場合は、すぐに現場を確認したい。維持管理に関しては、支障が出ないように対応していきたい。</p>	
<p>旧三江線の今後の再利用について、三江線利用者から三次駅には階段がある為、利用するのが不便であるという声を聞き、4、5年前の市政懇談会で駅内のエレベーター設置依頼の要望を出している。当時は、早期に実行するという回答を得た。実際、三江線廃止後にエレベーターの設置が行われた。個人の意見としては、結果として実行できるのであれば、早期に実行していただきたい。 先日の新聞記事で作木町の率先した旧三江線の再利用に関しての記事が掲載されていた。旧三次市管内の三江線再利用は駅舎や線路の問題があるが、行政としてはJRと再利用に関してどの程度検討が進んでいるのか。</p>	<p>旧三江線に関して検討会の提言を踏まえ、JRから譲渡を受けた旧尾関山駅、作木地区、栗屋地区の3カ所の活用について検討を進めている。作木町門田地区では、旧三江線と道路が並走されている区間で狭隘な箇所があり、三江線の跡地を道路の幅に活用するため、JRから譲渡を受けた箇所がある。 栗屋地区においては、上荒瀬の踏切付近において、通学路となっている道路で非常に狭くなっている区間がある。市としては、通学する児童生徒の安全確保の観点により、上荒瀬踏切付近をJRから譲渡を受け、道路の改良を進めていくよう予定している。 旧尾関山駅周辺においては、妖怪博物館を含め、三次町の街歩きスポットの一つになるよう、活用方法を検討している段階である。</p>	

令和元年度 まちづくりトーク 主な意見

開催日: 10月23日(水)

会場: 栗屋コミュニティセンター

参加者数: 35人

参加者の発言	市の発言	備考
<p>芸備線の時間短縮について 三次駅から広島駅までの所要時間が長く、快速電車であっても1時間20分程度かかるため、高速バス利用者が増加している傾向にある。これは、福岡義登旧三次市長の時代から話をしており、当時の回答としては振り子電車に変更すると所要時間が短くなるというものであった。1時間程度で広島市内に行けるものにして欲しい。</p>	<p>芸備線の高速化について 高速化を実現するとなると、車両の電化や振り子式車両の導入も一つの案であると考えている。車両の導入、施設改修やシステム変更などにあたっては、JR西日本、沿線自治体との協議、調整が必要であり、また、それに係る膨大な費用の負担という課題も上がってくる。高速化の実現に向けては、課題解決するものが数多くあり、現時点では難しいと認識している。本市としては、芸備線対策協議会を中心に、時間短縮を含めて、利便性向上に向け、今後も継続してJRに要望していく考えである。</p>	
<p>三次市民ホールきりりの有効活用に関して、三次市に入ると願万地付近に無機質なコンクリート建物があり、非常に目立つ。活用方法を検討していただきたい。経費はかかるものであるが、様々な広告の掲載等の利用方法を検討していただきたい。</p>	<p>三次市民ホールのコンセプトは、「三次市を代表する芸術文化の場」である。コンクリートの壁面を広告利用するという意見もあると思うが、開館時に壁面に照明をあてて使用した。壁面を一つのスクリーンと考え、きりりの存在を周知させる効果もあった。いただいた意見も含めて、今後の活用に関して検討していきたい。他の施設を例としてみると、垂れ幕を使用して現在の催し物の広告する方法もあるが、きりりの場所は風が強く、取り付けるよう設計されていないため、下に看板を設置し、広告する形を取っている。</p>	
<p>作木町の自治連合会が一般社団法人化されたことに関して、行政としては一般社団法人化についてどう考えているか。</p>	<p>作木町自治連合会は、今後を見据え、持続可能な地域づくりについて協議を進められた中で、一般社団法人化という答えに行きつかれた経緯がある。各地域によって地域の課題や方向性等があり、各地域の最善のまちづくりの方法があると思う。作木の方式については新たな試みである。市としては一律にまちづくりの方向性に関して提案することではなく、各地域で地域にあったまちづくりを検討していただきたい。</p>	

令和元年度 まちづくりトーク 主な意見

開催日:10月23日(水)

会場:栗屋コミュニティセンター

参加者数:35人

参加者の発言	市の発言	備考
<p>市街地巡回バス「くるるん」について路線拡大を要望する。</p>	<p>・くるるんバスが誕生した経緯として、以前、県立みよし公園及び三次駅を結ぶ「三次ウェーブ号」の利用低迷に伴い、再編したものである。三次ウェーブ号では広範囲に路線設定がされていたため、乗車時間が長く、利用が困難という課題があり、その課題解決のため市民の意見を取り入れ、1循環が1時間というコンパクトな市街地循環バスくるるんが誕生した。くるるんの路線は三次駅を中心としおり、公共交通機関を利用した観光客や周辺地域より市街地に来られた市民の方の通院や買い物などの移動手段としてその役割を担っている。他地区からも路線拡大の要望が出ているが、運行時間の問題や市街地の基幹的な交通機関としての役割がある為、路線拡大に関しては現状では難しい。</p> <p>・地域公共交通機関を地域住民と行政が守っていくことに関して、どの地域でも同様な課題を抱えている。各地域によって地域公共交通のあり方が違っている。川西ではAIを活用した効率的な運行のあり方など、様々なパターンが考えられる。今後、高齢化社会を迎える三次市として、地域の公共交通機関の確保や各地域の特色に沿った公共交通機関について、地域住民と行政が時間をかけて模索しなければいけない。</p>	
<p>栗屋小学校では、「地域に学び、地域に貢献する子どもたちの育成」ということを目標にしている。三次市の特色ある学校づくりや地域の住民の力を借り、栗屋の歴史・自然について学びの機会をいただいている。県民文化祭等での発表やインターネットの利用、文書作成等、学習活動を生かすことにより、将来栗屋に貢献する子どもたちを育てることを目標としている。栗屋地区には沢山の教育資源がある。新たな教育資源があるのであれば、教えていただき、さらに生かしていきたい。</p>		